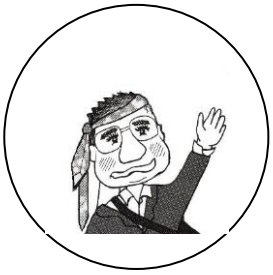
インド大魔王のエッセイ　　２０２４年１２月号

大魔王のお笑い神話



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話
発行：トラベル・ミトラ・ジャパン　　ぽん子画
（530-0041）大阪市北区天神橋 1-18-25　第３マツイ・ビル 201　ＴＥＬ：06-6354-3011
お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。（E-mail：daimao@travelmitra.jp）

霧が覆い隠すシッキム王国の〝神秘〟（2）

Ｊ女史はカトリック教徒だというので、「本田哲郎神父を知っていますか」と訊ねてみた。即座に「名前をきいたことはある」と答えたが、大魔王のカウンセリングによると、「知ったかぶり」だととらえた。本田神父はＮＨＫ「こころの時代」でとりあげられたことがあるが、活動範囲は大阪・神戸が中心である。聖書解釈に知的興味があるか、キリスト者の社会活動に関心がある人なら知っているが、Ｊ女史はいずれでもないように思えた。本田神父の社会活動拠点は大阪・釜ヶ崎である。神戸でバイブル・クラスがあり、わが輩は時間があれば参加するようにしている。本田神父の聖書解釈が、わが輩のキリスト教観にあうからである。

「だいまおうさまは、クリスチャンですか？」

Ｊ女史が聞くので

「いいえ、わが輩は〝ヒンドゥー〟として参加しています」

というと、Ｇ君が「ボクもヒンドゥー教徒です！」と小躍りして喜んだ。聖典『バガヴァッド・ギーター』『ウパニシャッド』などをグループの指導者から学んでいる。Ｊ女史も「私も・・・」といいたげであったが、一応カトリックで洗礼を受けているため明言することはなかった。Ｊ女史曰く「ゆるいカトリック教徒」であるらしい。キリスト教系の大学で心理学を学んでいるとき、情緒的に洗礼を受けたのかもしれない。いわばカトリクの〝檀家さん〟である。

それで三者が喜び合ったというわけではない。そう思われたら心外なので、わが輩は即座に訂正するはめになった。「ガンディーさんが言う、〝ヒンドゥー〟です」と。そして説明を付け加えた。「神を真理とするのではなく、真理を神とする」という思想です。

灰や指輪の物質化現象にのめり込んでいる人には理解できないだろうと思い、それ以上の説明は控えた。

話題は、脈略なく進みキリスト教からマザーテレサの話になった。かれらグループの指導者はマザーの話もするらしい。指導者の懇意の若い女性が、マザーのミッションに関わっているようだが、キリスト教観とヒンドゥー教観の板挟みで悩んでいるという話になった。どうちがうのか。キリスト教では死ねば天国に赴くが、ヒンドゥー教では輪廻することになる。これは大きな矛盾である。若い女性は指導者の影響をうけたのか、輪廻転生、生まれ変わり、カルマ（業）、前世の因縁などの観念に悩まされている、とＪ女史は言った。（これも指導者からの伝え聞きなので、あやふやな人のあやふやな情報なのだが・・・）もし若い女性がシスターとして入団していたのなら離団したほうがよい、

とわが輩は内心思ったがコメントを避けた。
　突然話が飛んで、「晩年にはマザーに神の呼びかけがなくなった」とＪ女史が言い出した。指導者から聞いたという。わが輩はそれにカチンときた。神秘的交信がなくなったから、マザーの霊性的価値が下がったというニュアンスの響きがあったように感じた。オカルト的神秘にしか興味がないオタク諸氏の解釈だ。マザーは神と、電話でお気軽に会話していたのではない。
　確かに、1946 年９月 10 日「召命の中の召命」があった。神からの強い要望である。それ以降は、「絶望」の中で苦闘するのが真のキリスト者の責務である。神はわれらの苦しみに寄り添う存在である。合格祈願の天満宮の神さまとはちがう。フロイトやユングも結構だが、絶望の哲学者キルケゴールをご専門のドイツ語で読まれることをお勧めしたい。これについては、後段のダージリン紀行のところでも述べてみたい。

　『死者の書』ついてもＪ女史が語りだした。心理カウンセラーらしい話題である。
「死んでから 49 日間、屍に向かってチベット語のお経（死者の書）を読みつづけるのよ」
（うぅん？）49 日間も屍を置いておくと腐敗するのではないの、と疑問をもったが、そこはツッコマなかった。これもグループの指導者の受け売りかもしれないからである。おそらく『死者の書』を読んだことがないのであろう。Ｊ女史は 49 日の意味をご存知なかったので、生まれ変わりの期間（中有）と、7ｘ7＝49 と、なぜ 7 なのかを説明しておいた。これも後段のヨーガ行者ミラレパの像のところで述べてみたい。

　Ｊ女史が「量子力学」という単語を吐き出したが、彼女流の解説がなかった。お聞きしたいと思ったが、解説力がなかったのかもしれない。「量子力学」と超能力、科学と宗教、目くらましの結合には要注意である。科学〝的〟に惑わされるな！

　一体このグループの正体とは何なのか。
「今通り過ぎた人が指導者よ。今や〝教祖〟よ！」
　Ｊ女史が叫んだが、後姿しか確認できなかった。薄あずき色のロングのダウンジャケットを着ている。Ｊ女史が言うには冷房に弱いそうだ。
　そろそろ告白してもよい。実はわが輩は早い段階で指導者が誰なのかを認識していた。後ろの席の中年女性が「Ａ先生、Ａ先生」と小うるさく連呼していたからである。
　1990 年代、「サイババの超能力」や、過去未来が分る「アガスティアの葉」などで人気者になった。「科学者なのにインチキだ！」とわが輩は思っていた。
　そこでインド通のＭ教授（東大数学科専攻）に憤慨をぶっつけてみた。当然わが輩に同意するかとおもいきや、「よいと思いますよ」とすんなりかわされた。あんぐり状態のわが輩はそれ以上聞かなかった。おそらくＡ先生を科学者だと思うから憤慨する。小説家のフィクションだと思えば、何の問題もない、と言われたのだろう。要は、それに惑わされる読者信奉者の問題である。

　わが輩が「インチキだ！」というには体験的根拠がある。ながらくパンドラの箱に沈めていたものを、後世のオタク諸氏のために、そろそろ開陳しておこうと思う。乞う次号を。